

第42回「ハートミーティング」意見交換の内容について 安寧の都市ユニット京都市チーム

★参加メンバーからの主な声

- 「地域主導のまちづくりの重要性」を熱心にお話いただき、市長の情熱を改めて実感した。市民はまちづくりの主人公であり、市職員は影の演出家としての役割が期待されていることを念頭において、職務に取り組んでいきたい。
- 市長が考える安寧の都市「京都」が、今回安寧の都市ユニットで学んだことと共通点があり嬉しく思うとともに、ユニットで取り組む実践プロジェクトについて評価していただき、今後の取組への大きな励みとなった。
- 自分たちが目指す「安寧の都市」のコンセプトと市長やユニット履修生が思い描く京都市像に似通った部分が多数あり、今後も協力しながら現場を前に進めていきたい。
- ビジョンを共有できる今回の試みは大変素晴らしいと思った。京都市からは多くの履修生が安寧の都市ユニットに参加されており、大変感謝している。その期待に応えられるよう、引き続きユニット教育を充実していくとともに、今後、ここから目に見える成果が出てくるようになるとさらに素晴らしいと思う。

★市長からのコメント

- 地域におけるまちづくりの主人公は市民であるが、すべて市民の手に任せていけない。市職員の役割は、地域力を最大限に発揮できるよう、まちづくりを演出することである。
- 京都市では、「真のワーク・ライフ・バランス」を推進している。「真の」とは、仕事と家庭、そして社会貢献の調和を意味しており、職員も地域活動に参加し、貢献することが大切である。
- 御池創生館は中学校を中心とした複合施設で、老人デイ、障害のある方が働くレストランなどが入っている。中学生が老人デイにボランティアに行き、レストランで働く大人を近くで見ることができる。学校を中心として、世代を超えた昔ながらの地域コミュニティができており、地域の絆が強まった。皆さんにはこのような地域コミュニティを再生する取組をどんどん展開してほしい。